

令和5年度 菊池市議会と各種団体 との意見交換会報告書

令和5年度の議会報告会は、常任委員会ごとに所管する関係団体の皆さまとの意見交換会という形式で開催しました。



令和6年4月

菊池市議会

【 総務文教常任委員会 】

総務文教常任委員会では、令和5年11月13日に菊池市PTA連絡協議会との意見交換会を行いました



はじめに、令和5年 定例会及び委員会での審議内容等の報告を行い、今回の意見交換会のテーマである「学校の現状と課題」について意見交換を行いました。

まず、不登校に関する取組について、PTA連絡協議会役員から「昨今不登校の児童・生徒が急激に増えている。泗水中学校では40名ほどの不登校が出ている。」との問題提起がありました。

委員より「教育委員会の答弁では、適応指導教室を利用してほしいとの答弁だった。学校はもっと関わったほうがいいのか。」との意見があり、役員から「学校から毎日声掛けがあると落ち込むなどの声もある。声掛けがないと学校は何もしないとの声もある。とても難しい。」「3年生の生徒の中に、1年生のときから不登校だった生徒が先生の尽力により解消している事例もあるが、先生の負担が大きい。授業、部活動、不登校と対応が大変である。家庭だけでなく、学校だけでなく、周りのサポートである地域で関わり合うことが大切だと

思う。」との意見がありました。

また、関連して、役員から「菊池はいじめや差別が小中学校だけでなく高校も含めて、こんなに多いのかと思った。さらには、市外の友人からも菊池市はいじめや差別が多いから、菊池では子育てしたくない、住みたくないとの話を聞いてすごくショックだった。」との意見もあり、本委員会としては、今後、教育委員会に対し不登校児童・生徒の実数の把握や教育現場の現状を報告してもらい、それを受けて協議したいとの考えであります。

次に、学校施設管理や通学路の安全対策への取組について、役員から「通学路の安全として、危険木の問題がある。また、校区の危険箇所調査があっており、各道路管理の担当が違うのは分かるが、国道・県道・市道の違いでなく対応してほしい。」「菊之池小学校を増築したときに2階建てを建てられればと思ったが、1階建てだった。その後、さらに増築されたがもったいない。今後、菊之池小学校の児童は増えると思うが増築で対応するのか。」との意見がありました。

委員より「通学路の問題は大事だと考える。状況把握をしながら危険箇所がないか調査するように関係各課につなげたい。」「学校の増改築については、増築より新築のほうが安くできるのではないかと議論が議会でもあったが、学校長寿命化事業で増築となった。」との意見がありました。

最後に、菊池市PTA連絡協議会への助成金について、役員から「なるべく多くのPTA役員や保護者に九州・県のPTA大会に参加してもらいたいの、市のバスを利用できないか。教育委員会担当課から12月に助成金の減額を示すとの話があった。優先順位が逆ではないか。子どもやPTAの予算を削っていいのか。予算を死守していただきたい。」との要望がありました。

委員より「PTA組織が活発になることはとても良いことだと思うので、補助金減額の事実関係を執行部に聞いて対応していきたい。」「歳出予算がどのようなものに使われているのか、今後、どのような計画でどのような予算が必要なのかについても示していただけると執行部とも協議しやすい。市のマイクロバスの活用についても検討させたい。」との意見がありました。

今回の意見交換会で出された問題点について、総務文教常任委員会としましては、教育委員会に意見交換会の会議録を提出し、教育委員会からの回答に基づき所管事務調査等の審査を含め、改善点がないか協議する計画であります。

また、菊池市PTA連絡協議会の役員全員から、今後も定期的に総務文教常任委員会との意見交換会を望む声が上がったことについては、意見交換会の有効性を再認識したところであります。

【 福祉厚生常任委員会 】

福祉厚生常任委員会では、令和6年1月22日に菊池郡市医師会との意見交換会を行いました。



はじめに、令和5年定例会及び委員会での審議内容等の報告を行い、医師会から事前に質問があった「第8次医療計画に基づく市の認識は」「検診受診率の向上対策」などについて説明を行った後、意見交換を行いました。

まず、会員より「令和6年4月から始まる医師の働き方改革や、医師の高齢化が進み、医療機関の維持も年々厳しい状況である。」「救急医療体制の維持も課題であり、自治体病院並みの体制が必要ではないか。病院だけが踏ん張るということではなく、地域医療を守るという意味で現在の輪番体制への一層の予算措置という形での協力を求める。」との意見がありました。

次に、「現在、菊池市においては、盲腸などの基礎的な手術もできない状態であることは知られていない事実であり、危機感を持ってもらいたい。」と現時点での地域医療の課題と、「TSMCの進出による人口の増加に、現状の医療体制が受け皿となりえるのか不安がある。」「土地価格の高騰により借地料も

高騰しており、医療機関の維持が難しい現状にある。」「T S M C 関係の企業が高収入を得られることで、医療スタッフなど、人員の確保が厳しくなる。特に介護士が不足していくことが危惧され、人員の確保が困難になることが予想される。」「スタッフの給料を上げたくても、診療報酬は国で決まっているため、上げるのが難しい。」「海外へ働き手を求める可能性があるが、市として外国の方の働き手の考えはどうなっているのか、施策の整備を求める。」との意見があり、T S M C の進出により更に医療体制の維持が難しくなるのではないかと懸念されていました。

また、「菊池市には、看護学校があり、准看護師育成を行っているが年々入学人数が減少している。県・市の連携をお願いしたい。」との要望あり、地域の医療スタッフの不足に係る問題として捉えられていました。

次に、「ジェネリック医薬品の使用については、製造の構造によるものからか、ジェネリック医薬品の量の維持ができないという負の面がある。現在の薬不足は慢性的なものになっており、特に、小児用薬・抗生剤の不足は長期化している。」との意見がありました。

次に、「地域医療調整会議への行政の介入が大切と感じる。市長にもぜひ参加していただきたい。在宅医療への考え・方向性が分からない。市としての医療への本気度が伝わってこないと感じる。」「校医については、かけもちをして頑張っているが、限界近い地区もある。何かしらのインセンティブを持たせないと増えないと考える。」との要望がありました。

議員間討議においては、「看護師・介護士の人材が多方面へ流出することは、他の産業と一緒にあり病院の維持自体が困難になってきている現状に危機感を感じる。」「人手不足解消策として、医療従事者バンクや外国人労働者の受け入れに対する施策の研究を行っていただきたい。」「診療報酬は国が決めているため、点数を引き上げる意見書を提出してはどうか。」「行政としての対応は厳しいものもあると思うが、行政の役割の大切さを感じた。連携を深め現状把握をするため、年に1回程度は医師会と執行部との意見交換会を行う機会があってよいのではないか。」「地域医療の根幹として、健康推進に関する条例を作成する必要があるのではないか。」との意見がありました。

【 経済建設常任委員会 】

経済建設常任委員会では、令和5年11月8日に、テーマを「今後のインバウンドを見据えた観光戦略」として、菊池市商工会、菊池観光協会の2団体との意見交換会を行いました。



まず、現状について、各団体より「国内の観光需要は、急激に伸びている状況にあるが、菊池市では令和5年4月から、前年割れの状況が続いている。」「海外ではキャッシュレス決済がほとんどであるが、菊池市の商店街の皆さんが海外対応型キャッシュレス決済に対応できていない。」「無料W i F i等のインフラ整備、食堂等の看板メニュー、商品パッケージ、ホームページ翻訳機、多言語に対応できるお店がほとんどない。」等の報告がありました。

また、こうした現状から見えてくることとして「お客様が行き先を選んでいる、平等に人が流れているのではなく、行き先が選ばれている状況が顕著であることから、まず選ばれる街にならないといけない。」との意見がありました。

次に、課題について、各団体より「温泉街の活性化と組織体制の二つが、私たちの抱えている大きな課題である。」「市の産業で一番大きなものは製造業、次に農業を抱えており、観光の位置付けは、その二つの大きな産業に対して、高齢化や人口減があり、観光で外貨を取って穴埋めしようという考え方ではないか。今後、観光を伸ばしていこうという方向性だとは思いますが、余りにも足元の基盤がない。」「市からの補助金をいただいて活動しているが、人がいない。人財がない。」「T SMCや宅地開発等、いろんなチャンスは、どんどん市に来ると思うが、その中で観光をどういう位置付けにするのか。菊池溪谷、菊池温泉等、非常に良い財産があるものの、それをどうやっていこう、どう生かそうとしているのか。」等の意見がありました。

また、「商店街が、外国インバウンドには対応できてない。」「キャッシュレスのタイプは、たくさんあるが、台湾で使われているタイプと日本のタイプが違う。一番簡単なクレジットカードによるキャッシュレス決済だと、手数料が相当かかってしまうことがネックであり、価格に転嫁できれば良いが、それができていない。」「各事業者に人が足りない現状と、事業承継である。M&Aも盛んに進めているが、後継者がいない、事業を渡す人がいない。」等の意見がありました。

次に、要望として、各団体より「市民広場で起きる問題は、イベントのある休日に起きる。市の担当課の職員も休日のイベント時には、観光協会に立ち寄ってほしい。」「人や人財が少ないので、商店街、物産館、商工会、観光協会と単独で戦っていける状況ではない。市は、商工観光課が商工振興課と観光振興課に分かれてしまったが、それぞれが密接にリンクしており、助け合っていく必要がある。市が観光部門をどう考えていくのか、サポートしていくのか示してほしい。」等の意見がありました。

現状、及び課題、要望等を踏まえた議員間討議では「観光協会は、企画やプランニングに力を入れていきたいが、現状では、観光案内や施設の管理に追われているとのことであり、一番の課題は、人の数や人財が不足をしている点だと感じた。」「キャッシュレス化について、事業者が気にされているのは、手数料なのか、機械の導入費用なのか、何か別のことなのか、行政と商工会との間でしっかり議論をしていくべきである。」「4市町村が合併して1つの市になったが、メインとなる特産品や名所を1つに絞り、菊池市と言ったら、これ。というものを作ることがよいのかどうか。難しいにしても、観光をより一歩前に進める議論は必要である。」「台湾ターゲットのおもてなしセミナー等を開催されており、言葉やいろんな文化の受け皿をきちんとしていかなければインバウンド対策は難しいので、行っている事業の成果が出てくれば良いと思う。」等の意見がありました。

以上、各委員会では、皆さまから貴重なご意見をいただきました。

このご意見を糧にして各委員会はもとより、各議員が今後の議会・議員活動に繋げてまいります。

このたび、ご参加いただきました皆さま、本当にありがとうございました。

菊池市議会議長 水 上 隆 光

発行	菊池市議会
発行日	令和6年4月
電話	0968-25-2325